

令和4年度第2回防府市図書館協議会

日時：令和4年10月25日（火） 午前10時～午前11時

場所：防府市役所 1号館3階南北会議室

■出席者

（委員）藤村会長、安光副会長、岡委員、河村委員、新田委員、山崎委員、津田委員、有吉委員（計8名）

（事務局）江山教育長、高橋教育部長、石丸教育部次長、松田教育総務課長、大野図書館長、御手洗図書館管理室長

■欠席者 岡田委員、吉武委員

■議事録

○事務局

定刻になりましたので、ただ今から「令和4年度第2回 防府市図書館協議会」を開催いたします。

互選により、会長、副会長を決めることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

（会長・副会長選出）

それでは、会長を藤村委員に、副会長を安光委員にお願いいたします。

（会長・副会長挨拶）

○事務局

続きまして、防府市図書館協議会規則第三条第1項に、「会長は会議の議長となる」と定めておりますので、これからの会議につきましては、藤村会長に議事進行をお願いいたします。

○議長

それでは、会議を進めさせていただきます。限られた時間ですのでスムーズに運びますように御協力をお願いいたします。

今回の会議につきましても前回までと同様に、会議及び会議録につきましては、「公開」ということでよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

では、異議なしということで、「公開」で進めてまいりますので、よろしくお願ひします。

それではこれより議事に入ります。議題1の令和4年度事業実施状況について事務局から説明をお願いします。

○事務局

令和4年度の事業実施状況について、事務局の方から御説明をいたします。

本年度第1回協議会で、令和3年度の図書館事業の評価をいただきました。図書館ではそれを踏まえ、日々のサービスの向上に努めているところです。

本日は、令和4年度図書館事業の9月末までの実施状況について、図書館長から御説明をいたします。

○館長

皆様には、あらかじめ資料に目を通していただいているという前提で、また1時間という限られた時間でもございますので、ここでは令和4年度になってからの新たな取り組みを中心に御説明させていただきます。

なお、各項目名については、時間の都合上、いちいち読み上げることはせず、数字番号で御説明させていただきます。

1 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館ですが、1ページ目の1-(1)の①です。ご存じのように10月1日に電子図書館を開設しました。これは図書館から遠いところに住んでいる方、また障害者や高齢者など、図書館に来るのが難しい方でも、いつでも自宅のパソコンやスマートフォンで電子書籍を読んでもらえるようにするためです。スタートに当たっては900冊の電子書籍を購入しましたが、今年度中に1,000冊まで増やす予定です。

なお、選書に当たっては、紙の本と同様、「資料収集要綱」に則り、特定の分野に偏ることなく幅広く集めてまいります。

ちなみに電子図書館導入にかかった費用ですけれども、初期導入費が77万円かかっておりますが、これは市が拠出しました。毎月のクラウド使用料金は、1か月5万円で、今年の導入時期が10月からということですので、消費税込みの半年間で、33万円ということになります。

また、電子書籍につきましては、先ほど900冊と申しましたが、いわゆる買取型のものが7割の約630冊、借りているライセンス型の方が3割の約270冊という内訳になっております。その購入費は、約400万というところでございます。

10月1日にスタートいたしまして、登録していただいた方は、昨日までの数字でございますが、41,712人です。非常に人数が多くなっておりますが、実は、防府市内在住で図書館の利用カードを持っておられる方は、全て自動的に登録者ということになっております。その関係で、最初からこのような大きな数字になっています。それ以外は、防府市に通勤・通学をしている方に限って電子図書館の利用が認められております。

1日にスタートしてからの貸出冊数につきましては、先ほど教育長の話の中でも出てきましたが、昨日までで1,268冊というところでございます。ログイン

数は、約倍の2,092件ということで、興味を持っておられる方が多いということかと思えます。

続いて1ページ目、1-(2)の②ですが、この度の電子図書館に関連して、時期は若干ずれましたが、9月28日にホームページをリニューアルしました。

なお、リニューアルに当たっては、「利用者が見やすい、探しやすい」のコンセプトに基づきまして、デザインを一新しております。10月に入ってからホームページのアクセス数は、282,460件というところでございます。

○議長

今の図書館からの御説明につきまして、御質問等がございましたら、どうぞ。

○山崎委員

今の説明の中にあつたように、図書館の利用カードを持っている市民は、全員利用できるということでしたが、市広報に登録方法が載っていましたが、カードを持っていても、バーコードに登録するのでしょうか。

○館長

いいえ、必要はございません。

利用者カードの番号とパスワードは西暦で生年月日が登録されておりますので、登録をしていただく必要はございません。

○議長

他には、よろしいでしょうか。

導入経費については、お聞きしましたが、システムについては、どこの物を使用されているのですか。

○事務局

システムは、図書館流通センター（TRC）という会社のもので、TRCの電子図書館システムになります。LibrariE&TRC-DLというシステムです。

TRCは、図書館に特化している企業で、そちらの電子図書館システムを導入しました。このシステムにつきましては、公共図書館に一般的に入っているシステムで、特に県内は、県立図書館以外のすべての公共図書館で、TRCのLibrariEを使っています。

○議長

県立図書館は、Kinodenでしたかね。

○事務局

はい。紀伊国屋系列の電子図書館Kinodenを県立では入れております。

○議長

KinodenとTRCのとは、どういうふうに違うのですか。

○事務局

紀伊国屋が提供しているKinodenについては、専門書が多いと聞いています。

市立の図書館レベルでは、あまり見ないような資料、大学で使うような資料や専門家が使うような資料が多く、TRCの方は、一般的な公共図書館で導入されていることが多いため、それ向けの資料が多いということです。

○議長

2 ページの一番上の所に、昨年末に図書館のコンピュータシステムを更新したとありますが、順調に稼働しているということで良いですか。新しいサービスがいろいろと始まっていますが、いかがですか。

○館長

今のところ大きなトラブルはなく、順調です。

続きまして、2 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館です。

4 ページ目、2- (1) の①ですが、第 11 回防府市子ども読書フェスティバルを6月5日に開催しました。午前中は、昨年亡くなった那須正幹さんを偲んで、親交の深かった4人による座談会、午後からは那須ファンによるいち推し本のブックトークを開催したほか、遺品やメッセージカード、ポップの展示も行いました。奥様をはじめとした御遺族の方も御参加くださり、大変喜んでお帰りになりました。

また、先日10月15日には、第32回図書館まつりも滞りなく終えることができました。ここにお集まりの皆様にも、ボランティア等で大変お世話になりました。ありがとうございました。

○議長

何か、御意見・御感想・御質問等ございましたら、お願いします。

子ども読書フェスは、那須正幹さんの追悼座談会、追悼展示、いち推し作品ブックトークなど充実したものになったと思いますけれども、参加された感想などがございましたら、どうでしょうか。

○新田委員

子ども読書フェスティバルは、那須正幹さんの児童文学者としての功績が伝わるいい会だったと思います。他に市民参加の部分も取り入れてあって、その部分もこれから続けていければいいなと思いました。

ただ、やはり子ども達の参加というのが、まだまだ進んでいなかったのも、その辺りは、次年度に考えていかなければいけないかと思いました。

○議長

今年は、内容的に一般向けだったことと、雨だったこともありまして、子どもの参加は、大変少なかったのも、そこは残念だったですね。

○山崎委員

午後のブックトーク、私のいち推し作品に、母親クラブの6年生に声を掛けたら、出ますということになりました。彼女は10冊ぐらい那須先生の本を読んで、本を決定したと言っておりました。そのイベントの際に取材したメディアにもかなり出させていただいていたので、この間の図書館まつりにやってきて

いたのを見かけて、「よく頑張ったね。」と声を掛けたら、大変喜んでおりました。那須先生の本が子ども達に一人でも多く伝わっていったらいいなと思っております。

○議長

大野館長からも防府図書館がテレビで取り上げられることが増えたという話をお聞きしましたが、子ども読書フェスティバルの時は、KRYが取材していて、先日の電子図書館サービスの開始の際には、TYSが取り上げてくれていました。電子図書館事業については、朝日新聞や中国新聞にも掲載されておりました。こういう風に図書館がマスコミに発信されるということは、図書館に対する理解を深めるとともに、利用が増えると思いますので、今後も力を入れていただけるといいですね。

それでは、大項目3について、お願いします。

○館長

それでは、3 生涯学習の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館についてです。

4 ページ目、3- (1) の①イベント・懇談会については、先ほどの「子ども読書フェスティバル」での座談会のほかに、1 件記載漏れがございました。申し訳ございません。口頭での御報告ということになります。6月8日、アスピラート3階音楽ホールにおいて、歴史小説作家の今村翔吾氏による講演会「歴史から物語ができるまで」を開催し、好評を博しました。これは今村氏が直木賞受賞のお礼を込めて全国を巡回する「今村翔吾のまつり旅」という企画に応募し、当選したことによるものです。財団を挙げての集客ということで、音楽ホールの7割近くまで埋めることができました。

○議長

御質問、御意見がございましたら、お願いします。

今村翔吾さんの講演会は、高校生も参加していて、今村さんが2階席にいる高校生に呼びかけておられてよかったですね。参加者数が、かなりあったようですが、どれぐらいだったのですか。

○館長

約700人でした。

○議長

そんなに多かったのですね。

他にございませんか。

子ども読書フェスティバルは、特に展示の準備が大変でしたので、図書館職員の方は、大変だったと思います。ありがとうございました。来年の子ども読書フェスティバルは、子どもが参加できる催し物を企画中ということなので、

期待したいと思います。

それでは、大項目4について、お願いします。

○館長

続いて6ページ目、4- (1) の①ですが、郷土資料収集冊数については、9月30日付けの冊数ということで、いわゆる紙の本だけの数字です。ちなみに電子書籍の郷土資料は、現在35冊です。

電子図書館は、皆様も一度はご覧いただいたと思いますが、郷土資料ということで、その中に防府市史料や上山満之進資料もございまして、購入した冊数は、35冊ということで御承知いただけたらと思います。

同じく6ページ目、4- (2) の①ですが、上山満之進翁と三哲文庫を顕彰するということで、今年も誕生月に合わせ、ブラウジングコーナーにおいて「三哲文庫、そして防府図書館」と題してのパネル展示を行いました。

また、図書館を使った調べる学習につきましては、今年から新たに「上山満之進賞」が創設されました。そちらにつきましては、市の方から説明いたします。

○事務局

前回7月の第1回図書館協議会でも、少し御説明申し上げましたが、上山満之進翁が私財を投じて図書館の前身である三哲文庫を建設し、防府市に寄附したのは、郷土の青少年の学ぶ志を奮い起こし励ますためだと言われています。また、上山翁は郷土史研究の支援にも強い情熱を持って取り組みまして、多くの成果をあげており、今も残る資料がたくさんあります。

図書館を使った調べる学習コンクールにおいて、上山賞を創設するのですが、今年度は全部で36点がコンクールに応募しており、その中の3点を上山賞としてノミネートしております。そして、11月3日に予定しております審査会にて審査員8名で審査し、第1回目の上山賞を決定したいと思っております。賞の基準としましては、既に作品を全体的な視野で審査した賞があることから、上山賞は郷土に特化した特別賞としたいと思っております。

○議長

御質問、御意見がございましたら。

○有吉委員

防府にいながら「上山満之進」のことをよく知らなかったのですが、分かりやすく上山さんのことを書いて貼ってあるなどすればいいなと思います。小学生なども知っている方なのではないでしょうか。

○事務局

一部学校の授業で、郷土の偉人として取り上げられているところがあったり、学校司書が大判用紙に上山さんのことについてまとめた壁新聞を貼っていたり、

学校の副読本「のびゆく防府」にも取り上げられたりしておりますので、授業の中でどういう形かは分かりませんが、触れていると思います。

○議長

図書館の上山満之進常設展示室の入口のところに、パンフレットがあります。あれは、ごく簡単に紹介されていますので、参考になるかと思います。

市民の方も、上山満之進さんをご存じない方もございますので、その顕彰を兼ねてこういった賞を創設したというところもあります。

それで、上山賞の審査には、山口大学の先生も入られるのですかね。

○事務局

はい。

○館長

続きまして5 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館ですが、7 ページ目、5- (2) の①ですが、昨年に引き続き、8 月 17 日に開催された山頭火ふるさと館の「山頭火を学ぶ会」に、講師として職員を派遣しました。

また、山口県央連携都市圏域図書館利活用推進事業としておこなう、「図書館で学ぶナナシマチの歴史」と題した連携企画では、10 月 8 日から始まった 7 市町（ナナシマチ）の図書館をめぐるスタンプラリーの他、防府図書館の単独企画として、11 月 18 日に山頭火ふるさと館の学芸員高張優子氏を講師に迎え、「種田山頭火の句を味わう」と題した講演会を開催する予定です。

同じく 7 ページ目、5- (2) の②については、煩雑になるため詳細を記載しておりませんが、アスピラートの「中村佑介展」との連携企画として、関連ミニ資料展示「ブックデザインの世界」、また「はしもとみお木彫展 カタチ生まれるところ」との連携企画として「アトリエのほんだな」を行いました。

また、ソラールの「読書感想文に関する展示」との連携企画として、関連ミニ資料展示「読書感想文のヒント～いつもと違う観点から、感想文を書いてみよう～」を行いました。

さらに、ソラール来館者が科学に関する本を館内で閲覧できるよう、定期的に資料を交換する団体貸出を開始しました。

○議長

今の御説明に対する御質問、御意見がございましたら。

学校図書館との連携、オンラインネットワークを活用して連携をしておられるわけですが、この利用状況を御説明していただきたいと思います。

○館長

学校図書館支援図書の出借件数につきましては、記載しておりますとおりで、件数にして 290 件、貸出冊数は 2,358 冊が 9 月までの状況でございます。

その他には、その下に出ておりますけれども、小学校が学校図書館に入れる本を選ぶ選書会用に、新刊本 90 冊を貸出しております。今年も、今のところ 11 校の小学校で、これを御利用いただきました。

○議長

本日は、小学校の先生がおいでになっておりませんが、防府市は、県内では学校図書館の電子化や各校とのオンラインシステムなどが進んだ状況で、学校司書の方もずいぶん頑張っておられて、以前と比べて、随分よくなっているかと思いますが、中学校長さんは、いかがですか。

○岡委員

初めて防府市に勤務しております。以前勤めていた市では、このようなシステム等もありませんでしたので、防府市で驚いているところは、すごく学校図書館に対する支援が充実しているなど感じているところです。

○議長

県内ではというところで、まだまだ学校司書の配置等についても、もっと充実するといいと思っております。

○安光委員

防府市は、とても進んでいるということです。他の所も、今議長がおっしゃったように、オンライン・ネットワーク・システムの活用については、やっているところもあればやっていないところもありますね。今後 GIGA スクール構想が進んできて、全員がタブレットを持っているという時代ですので、8 月 2 日に文科省から GIGA スクール構想に伴って、学校図書館と図書館との連携や、電子図書館との連携ということで、ID やパスワードを、子ども達に付与するという東大阪の例が出ていたと思います。

ここであれば、防府市立図書館の電子図書館サービスの ID やパスワードを、子ども達に付与すると思います。そうすれば、タブレットを家に持ち帰った際にも使えますし、学校でも自由に使えるということ、確か文科省の事務連絡で届いていると思います。こういったネットワークシステムが進んでいきますので、更に先を行っていただいて、子ども達が学校でも自宅でも、防府図書館の電子書籍を閲覧することができたり、貸出することができたりするようにしていただくと思います。今年度とは申しませんが、来年度、再来年度の早い時期にどうかと思います。ある市では、少し考えているようでございますので、競うわけではございませんが、防府市は一步進んでおりますので、子ども達の読書とか調べものに対して、かなりの予算を投じているわけですから、そういったものが活用できるという体制づくりが大切かなと思っております。

○議長

読売新聞に出ていたと思いますけれども、萩図書館なんかでは、司書が各小中学校に出前講座で出かけて行って、GIGA スクール構想で配付されたタブレット端末から図書館の電子書籍が利用できるように利用指導していて、小中学生の利用も増えているとお聞きしています。

ただ、電子書籍の児童書が十分でないかもしれませんね。その辺りはいかがですか。

○館長

現在、児童書が 233 冊ということですので、議長がおっしゃるように児童一人につき 1 冊行きわたらない状況ですので、申し訳ございません。今後、増やしていく予定でございます。

今後、毎年 500 冊の計画で増やしていこうとしております。

○議長

はい。今後の課題ということになるかと思えますね。

それでは、大項目 6 についてお願いします。

○館長

6 子どもたちの読書活動を進めていく図書館ですが、8 ページ目、6- (1) の①については、第 10 回目となる「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」への出品予定者のうち、希望者 18 人を対象に、「チャレンジ！調べる学習」と銘打って、テーマの決め方、調べ方、まとめ方について助言する講座を開講しました。

その効果も多少あったのでしょうか、今年のお品数は、小学生が 27 点、中学生が 9 点で、小・中学生ともに昨年より若干増えているという状況でございます。ただ、数年前に比べますと、それでも約半数というところですので、更に子ども達に働きかけて、図書館の利用を推進して参りたいと思います。

○議長

御質問、御意見がございましたら、お願いします。

子ども達は、このコロナ禍の中で、大変不自由な思いをしているかと思いますが、図書館利用の面で、児童の利用状況がどういう風なのか、簡単に教えていただきたい。

○館長

確かな数字は申し上げられませんけれども、コロナ前、令和元年度と比べまして、入館者全体が約 18% 減っております。ただ、貸出冊数はマイナス 5% 程度となっております、入館者数程は減っていない状況でございます。

その中で児童の利用につきましては、割合的にはコロナ前と変わらない比率でございます。全体時にまんべんなく減っているといった状況ですが、入館者が大きく減っているように見えるのは、コロナ禍で高校生の来館が減っている

という状況です。ご存じのとおり、コロナ禍であるため、距離をあけて座れるように座席数を半分に減らしていたり、いわゆる自習室としての研修室の開放をしたりしておりませんので、特に試験期に来ていた高校生が、来館しても座れないということで減っているというところがございます。幸い、ルルサス文化センターが自習室として開放されたということで、両方相まって、高校生の姿が増えてくることを期待しております。

○議長

お話のへやも、そのうち開放できるといいですね。

では、次をお願いします。

○館長

7 障害者や高齢者に優しい図書館ですが、9 ページ目、7- (1) の①については、先にも触れましたように、10 月 1 日より電子図書館をスタートし、インターネットを通じて、文字の拡大や音声読み上げのできる電子書籍を利用できるようにしました。

また、7- (2) の①については、4 月 1 日より、国立国会図書館が製作・収集した音声デージー等の視覚障害者等用のデータや、伊藤忠記念財団から寄贈を受けたデージー図書を提供する「ひなぎくネット」をスタートし、広報活動を行っております。残念ながら、ここまでのところ利用された方はございません。周知の方法に問題があるのではないかとということで、現在、見直しを進めています。課題として、取り組んでまいります。

なお、近年、利用の少なくなった郵送貸出サービスも、図書館の大きな課題として取り組んでまいりたいと思います。

○議長

御意見、御質問がございましたら、お願いします。

電子書籍は、非来館型サービスということで、高齢者サービスの一環にもなるかと思えます。

○安光委員

直接ここに関係するか分かりませんが、読書バリアフリー法が制定されて、国から地方自治体は努力義務だと思うのですが、基本計画を策定しているのか、検討中なのか、まだちょっとやっていませんということなのか、その辺りをお伺いできたらなと思います。子ども読書計画も、地方自治体は努力義務ではありますが、どこも結構策定されているようですね。

元々、障害者差別解消法ができて、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（いわゆる読書バリアフリー法）が成立したわけですが、防府市、図書館ではどのようにお考えなのかをお聞かせいただきたいと思います。

○議長

いかがですか。

○館長

市の方では、別に考えておられるかもしれませんが、図書館としては、バリアフリー法に基づく個々の施策というところでとどまっております。

先ほど申しました電子図書館の資料の収集あるいは、今、月いちキネマを開催中ですが、そちらでは12月の障害者週間に、バリアフリー上映会として映画の上映会を行っているというところですよ。

大きな基本政策は、市の方で行っていくのかなと思います。

○事務局

お答えします。

先ほど、先生がおっしゃったように、市としては、努力義務であることから、図書館サービス振興基本計画に盛り込んでいるところをどうするかというところを、今後考えていくべきかと思っておりますが、今のところ、計画の策定については、何も考えていません。

○議長

一応、7項目の説明していただいて、御意見、御質問をいただきましたが、全体を通じて何かございましたら。

津田委員は、この度、図書館まつり実行委員長になられましたが、何かございましたか。

○津田委員

ここ2年間は、コロナ禍等で時期をずらしましたが、この度は、久しぶりに秋に開催できました。お天気もよく、盛会でした。皆さんの努力によるもので、私は初めての会長でしたが、皆様が期待してくださって、イベントの顔になった気分でした。ありがとうございました。

古本リサイクル市の売り上げが、14万円近くありましたので、皆さん大喜びされていました。それで、これを利用できるように考えていきたいと思っております。

○河村委員

防府図書館は、進んだ取組みをされ、成果をあげておられること、また、新たな課題を抱えておられること等がよく分かりました。これからも、これらをふまえた取組みにより、子どもをはじめ誰もが気軽に利用できる図書館になることと思っております。

私の友人が図書館の近くに住んでおり、図書館をよく利用しているそうですが、彼は、「以前に比べると図書館が利用しやすくなった。」と言っておりました。ハード・ソフト両面があると思っておりますが、施設等は勿論、職員の方々の意欲的な取組の様子や利用者への親切な対応ぶりに接し、そう思ったそうです。

コロナ禍での図書館業務の推進は、大変なことが多いと思っておりますが、職員の

方々には、御指針の健康管理にも十分御留意頂きながら取り組んでいただきたいと思います。

○議長

はい。ありがとうございました。

職員の方が、よく頑張っておられますね。館長をはじめ副館長以下、職員の方には感謝したいと思います。

それでは、その他について、事務局から何かございますでしょうか。

○事務局

それでは、次回令和4年度第3回図書館協議会でございますが、来年2月頃の開催を予定しております。

次回の会議につきましては、来年度の図書館事業について、図書館の方から説明をいたします。

○議長

それでは、長時間にわたり御協議いただきまして、ありがとうございました。

本日は、令和4年度第2回目の会議でしたが、今年度事業の途中経過について説明を受け、御意見をいただきました。今後も委員の皆様御意見をいただきながら、生涯学習の中核施設、街の情報拠点として、図書館事業が充実したものになるよう協議を進めていきたいと考えております。

これをもちまして、本日の議題等について、全て終了いたしました。

委員の皆様、ありがとうございました。